



いちばんちい小さなどうぶつ動物はなん何なの

と飛ぶものではコウモリ

いまい生きているどうぶつ動物の中で、いちばんちい小さいものという、ノミやシラミも入ってきます。ここでは、イヌや人間と同じように、お乳で子どもを育てるほにゅうい乳類の仲間の中で、いちばんちい小さいものとして考えます。

世界でいちばんちい小さいほにゅうい乳類とされているのは、1974年、タイの南西部のどうくつで発見された「キティブタバナコウモリ」です。この地方の、ある川にそったどうくつにしかないコウモリで、ハチぐらいの大きさです。コウモリは、鳥のように空を飛びますが、ほにゅうい乳類の仲間なのです。

キティブタバナコウモリという名前は、小さい、ブタの鼻のような形をしたコウモリという意味です。頭からおしりまでの長さは、2.9～3.3センチメートル、つばさを広げた大きさは13～14.5センチメートル、体重は1.7～2グラムしかありません。1円玉2枚分の重さしかないのです。

ちじょう地上ではコビトジャコウネズミ

飛ばないほにゅうい乳類の中でいちばんちい小さいものは、チビトガリネズミとコビトジャコウネズミです。両方とも、虫をとって食べるモグラの仲間に近い動物です。大きさは、どちらも頭からおしりまでが3.5～4.8センチメートル、しっぽの長さが2.5～3センチメートル、体重は2グラムぐらいです。

チビトガリネズミは、北海道にもすんでいます。コビトジャコウネズミは、ヨーロッパの地中海から南アフリカあたりまで、広がってすんでいます。（監修・今泉 忠明）

